

茨城県の景気判断を据え置きました
～茨城県経済は、緩やかに回復しつつあります～

みなさん、こんにちは。いつも、このサイトをご覧いただきありがとうございます。私どもでは、茨城県における最新の金融経済情報を提供しております。公表されている指標は実態としては数か月前までのものですが、日銀水戸事務所作成の茨城県金融経済概況公表日の前営業日までに、企業等から聴取した情報も踏まえて判断しております。この紙面では、県内景気判断の背景となった考え方などを、簡潔に、可能な限りわかりやすく解説しますので、どうぞご利用ください。

12月7日に公表した茨城県金融経済概況では、県内の景気情勢の総括判断を、「緩やかに回復しつつある」として、判断を据え置きました。もっとも、本年2月より入れていた、「生産面に弱い動きがみられるものの、基調的には」という弱めの表現を外しましたので、若干、判断のトーンは強めています。

企業の生産活動についてみると、9月の鉱工業生産指数（季節調整値）は、4か月連続で上昇しています。これは、夏場の定期修理による減産からの挽回生産等により、化学の増加が続いているほか、生産用機械の一部で、中国などの新興国向け海外需要の底入れから、生産を増加させる動きがみられていることなどによるものです。足許の生産水準は、なお低いものの、持ち直しに向かう動きがみられているものと評価しています。

個人消費についてみると、百貨店・スーパー販売額（10月）は、天候要因等により衣料品販売が冴えないことを主因に、3か月連続で前年を下回るなど、このところやや弱めで推移しています。もっとも、乗用車新車登録台数（11月）は、水害の影響から販売台数が膨らんだ前年を更に上回りました。各社の新型車投入等が奏功しているようです。天候要因等から、個人消費の一部にもたつきがみられますが、全体としては底堅く推移しているものと判断しています。今後、年末商戦に向けた動きを注視していきたいと思えます。

住宅投資については、新設住宅着工戸数（10月）のうち、持家が11か月振りに前年を下回ったほか、分譲が3か月連続して前年を下回ったものの、貸家系が2か月連続で前年を上回ったため、全体では3か月連続で前年を上回りました。低金利環境の下で、全体として持ち直しの動きが続いています。

公共投資については、10月の公共工事請負金額は、9月までの前倒し発注の反動から、6か月振りに前年を下回りました。もっとも、上半期に受注した工事の着工が暫くは続くこととみられることから、工事の進捗ペースでは、なお、持ち直しの動きが続いているものとみえています。

先行きについては、一部に輸出の持ち直しの動きがみられますが、輸出全体では暫くは鈍さが残り、生産活動の本格的な持ち直しまでには、もう少し時間がかかるものとみています。当面の留意点は、為替相場を含む国際金融市場の動向です。トランプ氏の次期大統領への当選以降、様々な期待や予想が生じたことで、このところ世界的に金利上昇、株価上昇、ドル高といった流れにあります。ただ、次期大統領の具体的な政策が正式に打ち出されている訳ではないので、今後、新政権の政策運営やその方向性が、世界経済や国際金融市場に与える影響について、十分注視していく必要があります。

とはいえ、足もとの円安、株高や、製造業における生産が持ち直しに向かう動きは、企業マインドにも好影響をもたらしていると考えられます。この点については、茨城県短観（12月調査）で確認していきたいと思えます。

2016年12月7日
日本銀行水戸事務所長
鶴屋 洋一郎